地方大学の歩みを記録するデジタルアーカイブ：
札幌学院大学を例として

札幌学院大学　皆川雅章

2018年3月10日　デジタルアーカイブ学会第2回研究大会

CC BY

デジタルアーカイブ化の目的：

①資料をデジタル化し、大学のWebサイトで閲覧可能にすることにより、遠方の卒業生が記念館展示資料を見ることを容易にする

②在学生が本学の歴史を身近に学ぶ機会をつくる

③寄贈資料以外の定期刊行物をデジタル化することを通じて学内に分散している資料の整理を行い、数十年後に向けた歴史資料として保存する機会とする

今回のデジタルアーカイブ化の対象

　当初は本学の建学記念館（1987年に創立40周年を記念して建設）**資料展示室**に収蔵されている資料
展示品の総数は概算で約600件。

主な資料の種類

①各種**印刷物**

②レコード●カセットテープ●ビデオテープ●映像フィルム●写真など**アナログ媒体**での記録

③看板、時計、帽子、帽章、バッチなど**立体物**

建学記念館資料展示室





施設利用上の課題

①展示室は本学キャンパス入口の門の近く(通学路)にあり、在学生は随時見学できるようになっているが、訪れる学生はほとんどいない。

②北海道内に居住する卒業生であっても遠方*1)からの来訪が難しく、学園創設当時の卒業生については高齢*2)となりつつある。

＊1)札幌市と北見市➡300kmの距離
＊2)1946年に20歳➡2017年には91歳

想定する閲覧者

学術資料等のデジタルアーカイブ閲覧者は主として**専門家**であり、キーワードによる情報検索のスキルも高い。



大学の歴史デジタルアーカイブ

閲覧者は幅広い年代の卒業生・在学生であり、**「過去の記憶」**や**「身近な関心事」**等をもとに閲覧することが想定される。

資料の選定はもとより、**アクセシビリティ**についても考慮する必要がある。

以上のことを前提として



デジタルアーカイブ化を進める上での基本的な考え方

①卒業生・在学生が**アクセス容易**な自校の歴史資料の提供
②教育機関としての大学の**過去・現在**の記録のデジタル化
③その先の**未来**に向けた記録の**継承**

資料の選定(1)

本学の歴史

1946(昭和21)年　札幌文化専門学院
1950(昭和25)年　札幌短期大学
1968(昭和43)年　札幌商科大学
1984(昭和59)年　札幌学院大学

「懐かしい学び舎」は卒業年次によって異なる



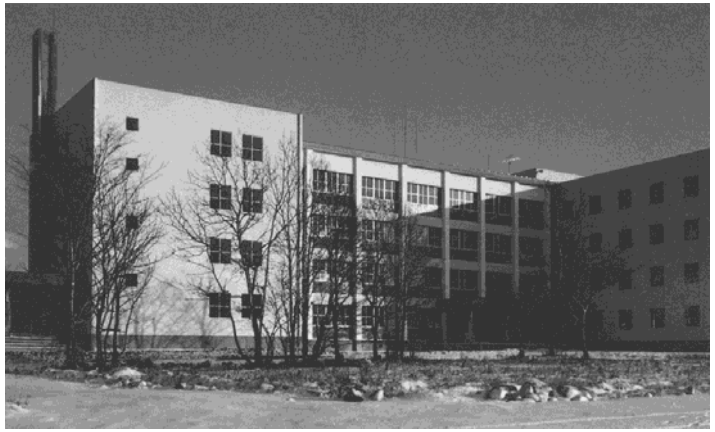
変遷をふまえた上での資料選定



札幌文科専門学院



札幌短期大学



札幌商科大学



札幌学院大学

資料の選定(2)

校舎同様、**慣れ親しんだ校歌**が異なる。

①札幌文科専門学院校歌
②札幌短期大学校歌
③札幌学院大学校歌（札幌商科大学校歌）



全て聴くことができるようにする
「音声＋歌詞＋楽譜」

資料の選定(3)

定期刊行物

校名変更の影響を受けにくい

内容的にも連続性を持っている。

例）

①同窓会誌

②後援会報

③学生だより

④札幌学院評論

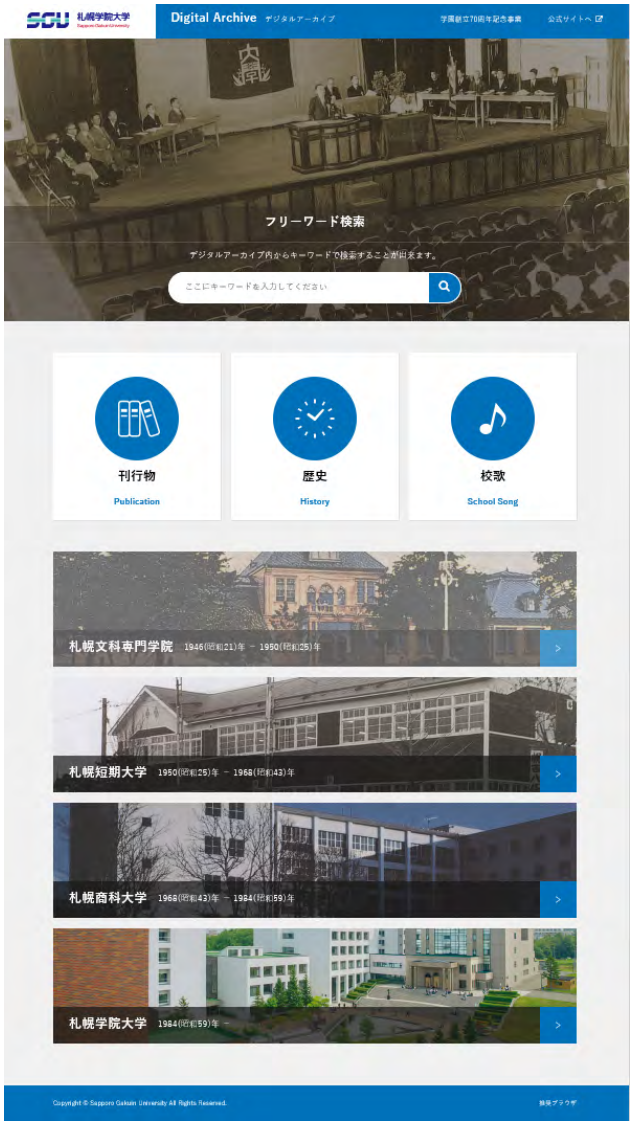
⑤学園広報

⑥入学案内

デジタルアーカイブシステム

トップページ

□直観的に入口がわかる
□卒業生が親近感を持つ



デジタルアーカイブシステム

懐かしの校歌

同窓会等で聴いてもらうことを想定



デジタルアーカイブシステム

項目の分類をわかりやすく

➡本学の建学記念館資料展示室に収蔵されている資料をもとに分類



アクセス状況(GoogleAnalyticsによる)



①北海道	1770
②東京	569
③神奈川県	214
④大阪府	106
⑤愛知県	89
⑥宮城県	32
⑦埼玉県	31
⑧栃木県	23
⑨兵庫県	23
⑩京都府	19

1日あたり10件前後の一定したアクセスがある

対象期間：2017年4月1日から12月31日

考　察　（３つの目的に沿って）

①資料をデジタル化し、大学のWebサイトで閲覧可能にすることにより、遠方の卒業生が記念館展示資料を見ることを容易にする

➡ △

②在学生が本学の歴史を身近に学ぶ機会をつくる

➡ ✕

③寄贈資料以外の定期刊行物をデジタル化することを通じて学内に分散している資料の整理を行い、数十年後に向けた歴史資料として保存する機会とする

➡ △